

令和7年度

教育課程指導資料

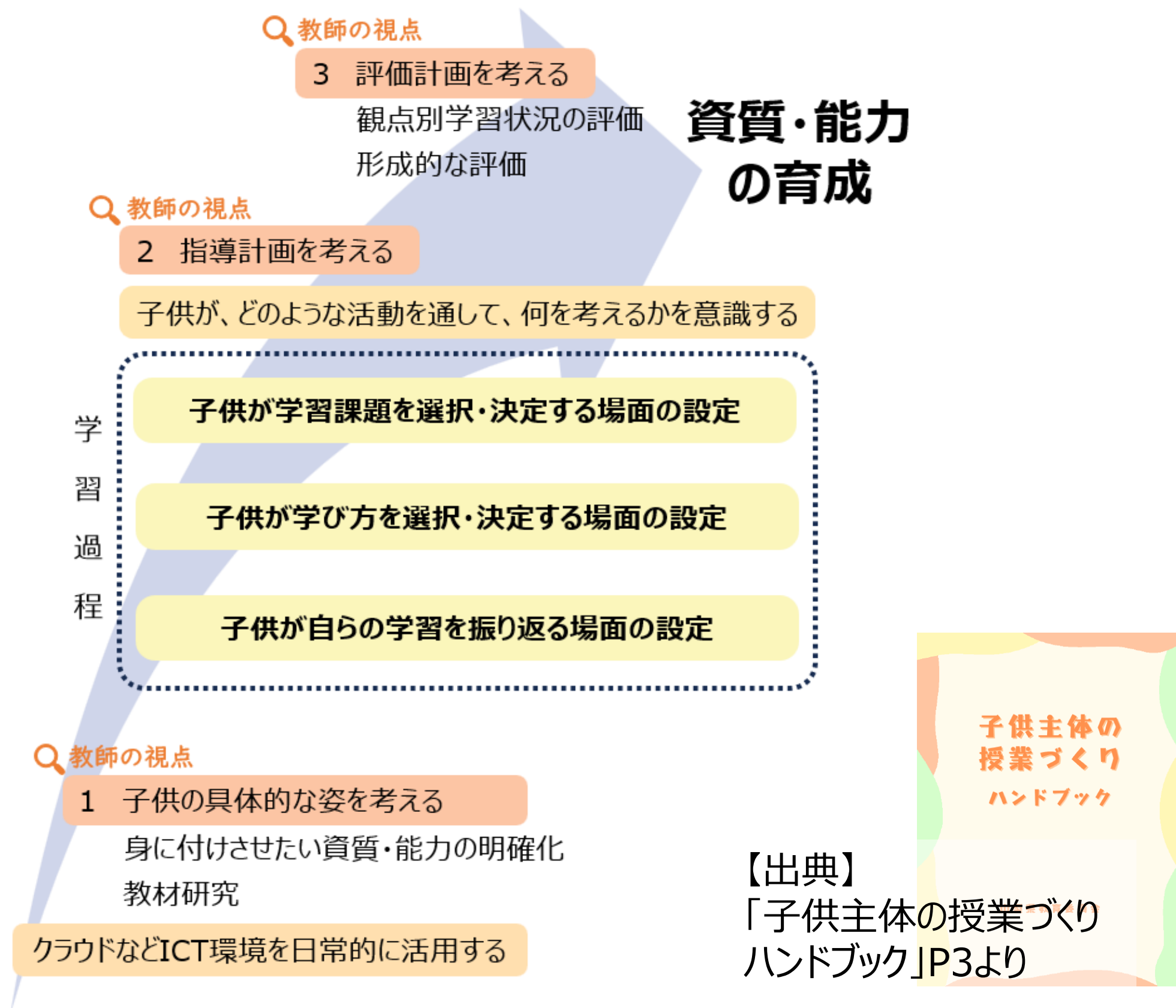
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて
～子供の学習調整を促す指導と評価について～

山梨県教育委員会 義務教育課
令和8年3月

「教育課程指導資料」について

令和7年度教育課程研究会では、「子供主体の授業づくりハンドブック」（以下、ハンドブック）で示した単元（題材）デザイン（下図）を基に、各教科等の特性に応じて、子供の学習調整を促す指導や評価の工夫を具体化しました。

子供主体の授業づくりに向けた単元（題材）デザイン



※ハンドブックと本冊子を並べてご覧いただくと、より理解が深まります。

ハンドブック：山梨県教育庁義務教育課
令和6年度作成・発行



本冊子では、実践事例を紹介しながら、指導や評価のポイントをまとめています。

なお、ハンドブックの単元（題材）デザインに示している「学習過程」の各場面と「評価計画を考える」に焦点を当ててまとめています。

○令和7年度教育課程研究会について	P 3 - 4
○子供の学習調整を促す指導や評価の工夫	
子供が学習課題を選択・決定する場面の設定	P 5 - 6
子供が学び方を選択・決定する場面の設定	P 7 - 8
子供が自らの学習を振り返る場面の設定	P 9 - 10
評価計画を考える	P 11 - 12
○一覧表	P 13

子供の学習調整とは？



子供一人ひとりが、自分自身で学習の状況を把握し、自らに合った学習の進め方を考えたり、自主的・自発的な学習を行ったりするなど、主体的に学習を調整することです。

学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動につなげたりする力が求められています。



○令和7年度教育課程研究会について

■研究テーマ

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて
～子供の学習調整を促す指導と評価について～

■成果物と活用方法

1. 教育課程指導資料【本冊子】

ポイント

＊「子供主体の授業」における、子供の学習調整を促す指導と評価のポイントを示しています。

2. 実践事例

概要

＊各教科等の事例ごとに作成。
＊各教科等の事例の概要を示しています。



[教育課程研究会](#)
：山梨県義務教育課

3. 学習指導案

詳細

＊各教科等の実践事例の詳細。
＊学習指導案作成時の参考資料としても活用可。



[教育情報コンテンツデータベース](#)
：山梨県総合教育センター
「学習指導案」の категорияに掲載

本冊子を出発点として、必要に応じて概要や詳細を確認してみましょう。



■ 本冊子の構成

ハンドブックとの関連

ハンドブックに示されているポイントとそのページを提示。

工夫のねらい

見出しに「ねらい」を示して、様々な工夫を分類。

工夫のポイント

他教科等にも活用できるように、汎用的な表現でポイントを提示。

工夫の取組例

実際の取組を簡潔に紹介。それに関連する工夫を ＋α で紹介。

○子供の学習調整を促す指導や評価の工夫

子供が学習課題を選択・決定する場面の設定



子供が「学びたい」「解決したい」と思う学習課題

- ・子供がもつ疑問を想定
- ・既習事項や日常生活等との関連

ハンドブック
P5

□子供が自ら学習に取り組めるように

○単元構想を工夫

探究の過程が繰り返されるような単元構想にすることで、子供の学びの自走を促した。【中総②】

実践事例

「取組例」を行った実践事例を明示。
【校種 教科等 実践事例の番号】

本冊子に掲載されていない実践事例にも、たくさんの工夫がみられます。どのような工夫を、どの実践事例で取り組んでいるか、一覧表（P13）にまとめました。



■ 本冊子の使い方

・こんなときに・・・



ハンドブックをどう活用したらいいのかな？
見てみよう。

子供主体の授業を目指したい！どんな工夫ができるか見てみよう。



・気になる実践を見つけたら・・・



もっと具体的に知りたいから、「実践事例」を見てみよう。

研究授業をするから、「学習指導案」を見て参考にしよう。



○子供の学習調整を促す指導や評価の工夫

子供が学習課題を選択・決定する場面の設定



子供が「学びたい」「解決したい」と思う学習課題

- ・子供がもつ疑問を想定
- ・既習事項や日常生活等との関連

ハンドブック
P5

□子供が自ら学習に取り組めるように

○単元構想を工夫

探究の過程が繰り返されるような単元構想にすることで、子供の学びの自走を促した。【[中総②](#)】

○子供がこだわりたくなる学習課題を準備

実践を伴う課題を準備し、さらには一人ひとりが実践の場を選択できるようにすることで、子供が学習の目的意識をもってよりよい課題解決に向けて取り組めるようにした。【[小家②](#)】

○子供の実態に応じた選択課題を準備

子供が自ら問いを立て、関心のあるテーマを選択できるようにすることで、自分事として学習に取り組めるようにした。【[中道①](#)】



自分事として捉えられるよう、事前アンケートや意見交換を基に子供の言葉から問いを設定しました。

○ルーズブリックを提示

ルーズブリックを子供に提示することで、子供が学びの方向性を理解し、よりよい課題解決に向けて取り組めるようにした。【[小理②](#)】

A. 空気や水のせいしつをいかして、より強く、より遠くへとばすにはどうするかを考えながら作っている。
B. 空気や水のせいしつをいかしておもちゃを作っている。

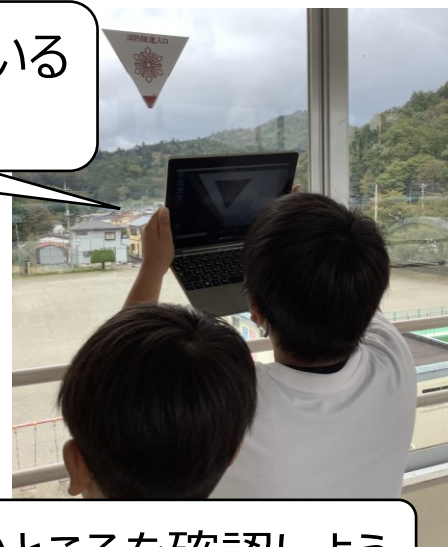
□子供の「学びたい」「解決したい」を引き出すために

○日常生活を意識

子供にとって身近な地域を題材にすることで、子供が必要感をもって様々な方法で情報収集し、課題解決に向かえるようにした。

【[小総②](#)】

学校の防災はどうなっているのかな。確かめに行こう。



地域のハザードマップを使って、危ないところを確認しよう。

○課題を明確化

学級目標を達成するための取組を決める際、アンケート結果を提示することで、よりよい意思決定をするために学習調整できるように促した。【[小特②](#)】

どれを一番がんばればいいのか？



アンケート結果のグラフを見てごらん。どんなことならがんばれそう？

○導入を工夫

題材の導入に遊びを取り入れることで、子供の「もっとやりたい！」という気持ちを引き出した。

【[小音①](#)】



こうしたらもっと楽しいよ！



もっとやりたい！



子供の思考を想定し、子供が「学びたい」と思える導入にしました。

□子供が友達の考えなどとの「ずれ」を意識できるように

○学級全体の結果を共有

アンケート結果を提示することで、子供が学級全体の実態や取組意欲などを知ることができるようにした。【[中特②](#)】



子供が学び方を選択・決定する場面の設定



学習環境の工夫

- ・学習形態、学習場所、学習ツールなど、多くの選択肢を設定

ICTを活用した学習状況の把握

P12
参照

- ・支援や指導に生かすため、進捗状況を共有
- ・単元（題材）デザインの調整・修正

ハンドブック
P7

□子供に学習の見通しをもたせるために

○活動の目的や課題を可視化

Learning Sheetを用いて毎時間の学習の流れを明確にすることで、子供が学習の目的と見通しをもって学習調整できるように促した。【[小外②](#)】



□子供が学習環境を選択できるように

○学びの場をデザイン

多様な学び方に対応できるスペースをデザインすることで、子供が学習形態を選択できるようにした。【[小道①](#)】

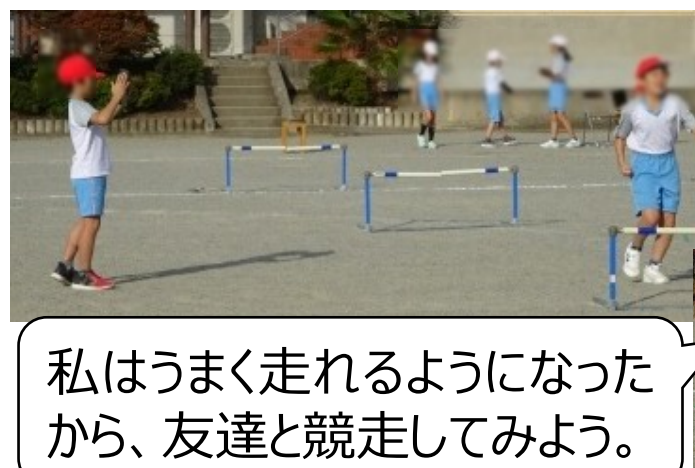
考えを整理し、自己と向き合うための一人用カウンター。

数人で対話したり、協働できるベンチ。



○学び方の選択肢を設定

場の設定と課題提示を工夫することで、子供が学び方を選択できるようにした。【[小体①](#)】



動画で自分の走っている姿を見てみよう。

私はうまく走れるようになったから、友達と競走してみよう。



□子供が自分の学びに必要なものを選択できるように

○参考資料等を共有

参考となる資料を実物で用意したり、クラウド上で共有したりすることで、子供が必要なタイミングで自由に閲覧できるようにした。【[中美②](#)】

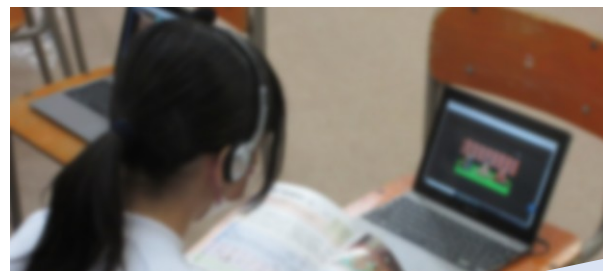


既存のパッケージからヒントを得る。

○動画や音源等の教材を共有

子供が必要なときに必要な教材にアクセスできるようにすることで、自分のペースで学習を進められるようにした。

【[中音①](#)】



子供は、繰り返し音楽を聴いたり、友達と一緒に聴きながら交流したりすることで、考えを深めていました。

□子供の学びをつなげるために

○一人ひとりの学び方を共有

選択した問いや学び方を共有することで、子供が自分のタイミングで友達と考えを共有できるようにした。【[小国①](#)】



学び方	読めば分かる	とい①	とい②
ともだちと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ともだちと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
先生と	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
先生と	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

○一人ひとりの考えを共有

クラウド上で共有したファイルに自分の考えを記入できるようにすることで、自然な意見交流を促した。【[中技②](#)】



○自然な協働を生む学習環境を設定

班で向き合う形を基本とすることで、子供が互いの作品について鑑賞し合ったり、話し合ったりできるようにした。【[小図②](#)】



+α 必要に応じて自由に離席できるようにしています。

子供が自らの学習を振り返る場面の設定



学びによる変容の自覚

- ・子供が自分の学び（学習内容と学び方）をメタ認知できる工夫
- ・他の単元（題材）や教科等との比較も効果的

ハンドブック
P9

□子供が自分の学びを自覚できるように

○全体で振り返る場を設定

個の気づきを全体で共有することで、気づきの質を高め、次の活動につなげられるようにした。

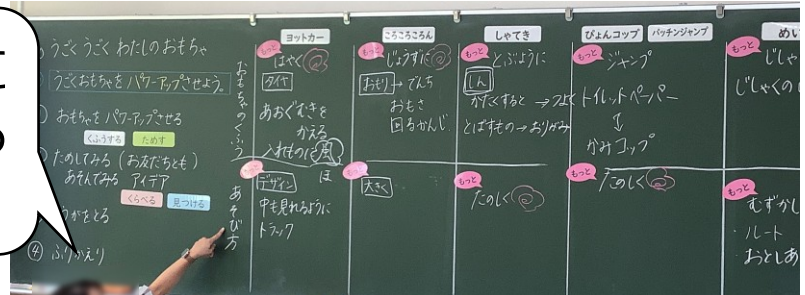
【小生②】

「おもちゃの工夫」については、いろいろ考えてきたね。

まだ「遊び方の工夫」が足りないな。



次回は「遊び方」について考えていこう。



○振り返りの時間を確保

学び方を中心に「できたこと・分かったこと」「できなかったこと・分からなかったこと」を振り返らせることで、メタ認知を促した。【中社①】

+α 協働のための視点を子供と共有して、対話を通した学習調整を促しました。



友達と話す中で分かったり気付いたりすることがあった！



□子供が「学習内容」や「学び方の変化」を振り返られるように

○ワークシートを工夫

題材を貫く課題や毎時間の気付きを、一枚のワークシートに記入できるようにすることで、子供が自分の変化に気付けるようにした。【[中家②](#)】

The worksheet is divided into several sections:

- 【学習前】** (Before Learning): Includes a date field and a question about being an independent consumer.
- 自分の課題** (My Task): A central section for setting tasks and goals.
- 毎時間記入** (Daily Entry): A section for recording daily reflections and insights.
- 【1～7時間目を終えて】** (After 1-7 hours): A section for reflecting on the learning process.

○視点を明確化

振り返りを書く際、「どのように学んだか」という視点を意識させることで、子供が学び方の変化に気付けるようにした。【[中理①](#)】

+α 単元を貫く課題を設定することで、学習のゴールを明確にし、学習の動機付けや学習調整を促しています。

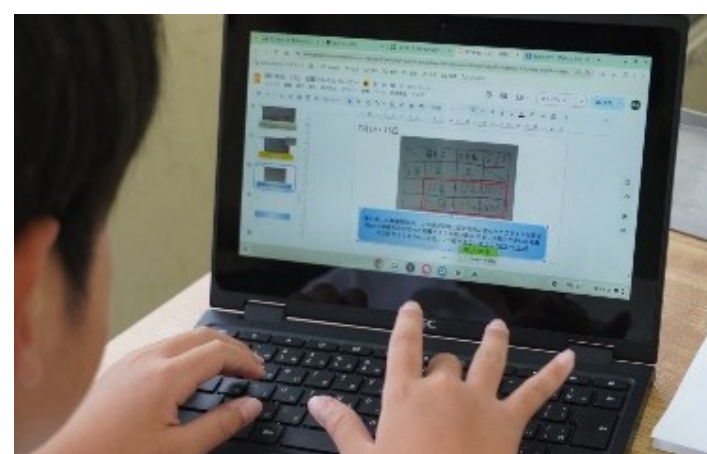


○学びの蓄積を共有

「振り返りスライド」を共有することで、子供が課題解決の方法を繰り返し振り返り、評価・改善しながら学習調整できるように促した。

【[中数①](#)】

この単元での学びが蓄積されたポイントノートとなり、それを共有することで、自他の学びを参照して課題解決につなげることができます。



評価計画を考える



観点別学習状況の評価

- ・指導計画を踏まえ、単元（題材）のどの場面で、どの評価資料を用いて評価するかを計画

形成的な評価

- ・一人ひとりのつまずきを想定して、事前に補助教材などを準備

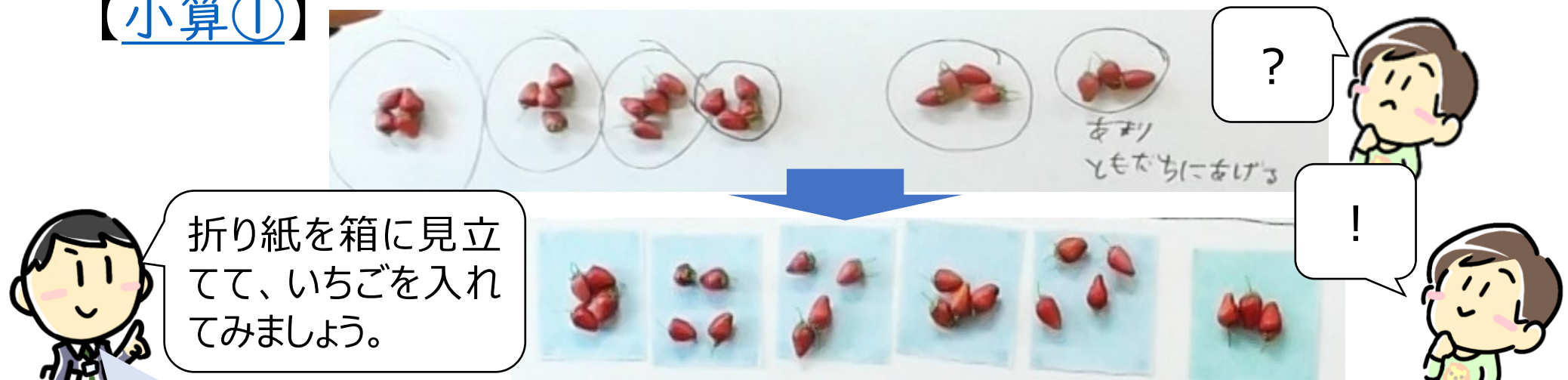
ハンドブック
P11

□教師が子供の学習改善を促すために

○想定したつまずきに応じた補助教材を準備

事前に準備していた補助教材を用いて、学習状況に応じた支援をすることで、子供の気づきや学習調整を促した。

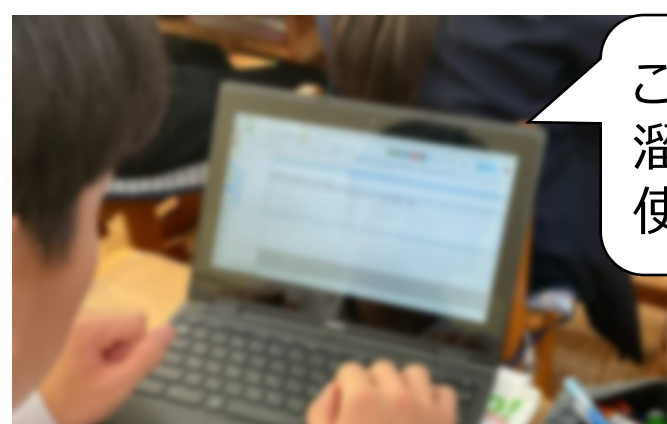
【小算①】



つまずきを解消するために、準備していた折り紙を用いて支援をしました。

○中間指導後に作戦タイムを設定

子供の言語活動の様子を踏まえて中間指導を行った後、作戦タイムを設定することで、目的達成のために子供が学習調整できるように促した。 【中外②】



教師は生徒の活動をモニタリングしています。そこで見取った、共通のエラーやよい表現を中間指導に生かしました。

形成的な評価とは？



学習過程の途中で、子供一人ひとりのつまずきや伸びについて評価するものです。その後の子供の学習改善や教師による指導の改善に生かす目的で行うので、評定には用いない評価です。

□教師が子供の学びを把握し、適切な支援をするために

○形成的な評価場面を設定（成果物の共有）

一度目のパフォーマンス動画を教師にも共有させ、リアルタイムで必要なフィードバックを行うことで、子供が再考し、学習を深められるように促した。【[中国①](#)】

+α 単元の観点別評価は修正した動画等を踏まえ、評価します。



○学習状況の把握

クラウドで進捗状況を把握し、子供の学習状況に応じて支援することで、子供が自分の言葉で「めあてに対するまとめ」を書けるように促した。【[小社②](#)】



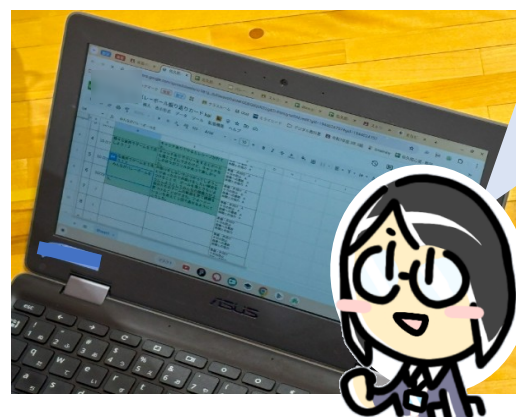
形成的な評価を基に、子供に声をかけています。



○振り返りを形成的評価のための評価資料として活用

振り返りを書く際に、できたことだけではなく、できなかったことも入力するように促すことで、教師の支援につながられるようにした。

【[中保①](#)】



自身の課題（つまずき）にも気付けるような工夫も取り入れました。



【一覧表】※実践事例の中にみられた工夫の一部をまとめました。

	工夫のねらい	工夫のポイント	実践事例
子供が学習課題を選択・決定する場面	子供が自ら学習に取り組めるように	単元構想を工夫	小国① 、 小生① 、 小総① 、 小総② ／ 中社① 、 中社② 、 中理② 、 中音② 、 中外① 、 中総② 、 中道②
		子供がこだわりたくなる学習課題を準備	小国② 、 小社① 、 小外① 、 小外② 、 小家② ／ 中国① 、 中国② 、 中数② 、 中外① 、 中特①
		子供の実態に応じた選択課題を準備	小体① ／ 中保① 、 中道①
		ループリックを提示	小理② 、 小外② 、 小道② ／ 中社① 、 中外①
	子供の「学びたい」「解決したい」を引き出すために	日常生活を意識	小算① 、 小算② 、 小生① 、 小総② 、 小家① 、 小道① 、 小特① 、 小特② ／ 中数① 、 中数② 、 中総② 、 中技① 、 中家① 、 中特②
		課題を明確化	小社② 、 小理① 、 小体② 、 小総① 、 小特② ／ 中保② 、 中技② 、 中家②
		導入を工夫	小社① 、 小音① 、 小図① ／ 中理① 、 中道②
	子供が友達の考えなどとの「ずれ」を意識できるように	学級全体の結果を共有	小音② 、 小生① ／ 中音① 、 中家① 、 中特②
	子供が学び方を選択・決定する場面	子供に学習の見通しをもたせるために	小国① 、 小外① 、 小外② 、 小特① 、 小特② ／ 中美① 、 中技②
		子供が学習環境を選択できるように	小図② 、 小生② 、 小道①
			小国② 、 小算① 、 小理① 、 小理② 、 小図② 、 小体① 、 小体② 、 小総② 、 小道② 、 小特② ／ 中社② 、 中理① 、 中総① 、 中特②
		子供が自分の学びに必要なものを選択できるように	小音② 、 小家① ／ 中美② 、 中保② 、 中家②
			小算② 、 小生② ／ 中国① 、 中国② 、 中音① 、 中音②
		子供の学びをつなげるために	小国① 、 小特①
			小社② 、 小算② 、 小音① 、 小図① 、 小家② ／ 中理② 、 中音① 、 中音② 、 中美② 、 中保① 、 中総① 、 中技① 、 中技② 、 中道①
			小社① 、 小理② 、 小図① 、 小図② 、 小外① 、 小家① 、 小家② ／ 中数① 、 中美① 、 中技② 、 中道② 、 中特①
		自然な協働を生む学習環境を設定	
子供が自らの学習を振り返る場面	子供が自分の学びを自覚できるように	全体で振り返る場を設定	小音① 、 小生② ／ 中保② 、 中家①
		振り返りの時間を確保	小家② ／ 中社① 、 中理② 、 中外② 、 中総① 、 中家②
	子供が「学習内容」や「学び方の変化」を振り返られるように	ワークシートを工夫	小国② 、 小理① 、 小道① ／ 中数② 、 中理① 、 中技① 、 中家② 、 中特②
		視点を明確化	小社② 、 小総① ／ 中社② 、 中理① 、 中外②
		学びの蓄積を共有	小音② 、 小体① 、 小体② 、 小道② ／ 中数① 、 中美② 、 中保① 、 中外② 、 中総② 、 中道①
評価計画を考える	教師が子供の学習改善を促すために	想定したつまづきに応じた補助教材を準備	小算① ／ 中美①
		中間指導後に作戦タイムを設定	中外② 、 中特①
	教師が子供の学びを把握し、適切な支援をするために	形成的な評価場面を設定（成果物の共有）	中国① 、 中国②
		学習状況の把握	小社② 、 小算① ／ 中外②
		振り返りを形成的評価のための評価資料として活用	小社② ／ 中保①

【参考】優良事例等の情報はこちら

[StuDX Style（スタディーエックス スタイル）：文部科学省](#)

- ・各教科等における深い学びの実践
- ・各教科等における学習場面での活用 など



[「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』：文部科学省](#)

- ・授業づくりの基本的な考え方【基本編】
- ・授業づくりの具体的な取組の紹介【実践編】 など

[学習者用デジタル教科書活用事例集：教科書研究センター](#)

- ・小学校編
- ・中学校編



令和7年度 教育課程指導資料

令和8年3月発行

山梨県教育委員会 義務教育課

所在地 〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6番1号

T E L 055-223-1764・055-223-1765

